

Journal of Structural Engineering, Vol. ○B, April 20○0	25	30	○	1	5	10	15	Architectural Institute of Japan	日本建築学会
構造工学論文集 Vol. ○B (20○0年4月)									
この欄は「発行年月」を記す。 表題は左右中央に書く。									
4行あける									
・枠は用字であり記載しない ・表題等は枠内にこのように収める。文字大きさ：和文主題14ポイント・副題9(または10)ポイント、和文氏名10.5ポイント、英文氏名10.5(または11)ポイント。いずれも強調文字は用いない。									
5	<p>駅前広場における景観の多様性とその評価に関する研究 相対的評価方法の提案</p> <p>DIVERSITY AND FAVORABILITY OF TOWNSCAPES IN STATION PLAZAS A proposal for a method of the relative evaluation</p> <p>構造一郎*, 環境二郎**, 計画三郎***</p> <p><i>Ichiro KOUZOU, Jirou KANKYO and Saburo KEIKAKU</i></p>							5	和文氏名は末尾の著者名のみ「and」で区切る
10	<p>15 Diversity and favorability of townscapes in station plazas were analysed on following 3 aspects.</p> <p>1. Relations between evaluation and physical elements composed by means of repertory grid method were analyzed, and physical elements were classified into : favorable elements, unfavorable elements, fuzzy elements.</p> <p>2. By using SD method with 40 couples of adjectives and factor analysis, 2 independent axes of "favorability" and "diversity" were shown.</p> <p>Upon 2 dimensional plane, 4 areas were translated as meanings of ; "fascinatingness", "orderlyness", "disorderlyness", "boringness".</p> <p>3. Individual pictures by single-view-point, composed pictures by 4 view-points, and their relations were located upon 2 dimensional plane of ; "favorable-unfavorable", "diverse-monotonous".</p>							15	英文主語はすべて大文字で記す
20	<p>Keywords: Diversity, Favorability, Single-view-point townscape, 4-view-points townscape, Station plaza, Repertory grid method</p> <p>多様性, 好ましさ, 単一視点景観, 4視点景観, 駅前広場, レパトリー, グリッド法</p>							20	キーワード・英文はイタリック体とする
25	<p>1. はじめに</p> <p>日本の大都市、特に首都圏での通勤鉄道網の発達はめざましく、通勤鉄道網上の駅は、市民の日常生活と密接に結びついている。このような状況の中で、駅は、通勤、通学、買い物、遊び、といった日常生活の機能的中心であり、同時に、分節化された無数の生活圏をイメージする際の中心となっている。</p> <p>前編の「駅舎および周辺街並の知覚構造に関する研究」では、駅舎と周辺街並について、物理的属性、評価、物理的属性と評価との関係という観点から察した。</p> <p>・・・(略)</p> <p>2. 研究の目的</p> <p>本研究における目的は、その第一として快適な駅前広場を調査・評価することである。・・・(略)</p>							25	刷り上がり本文 本論・文字大きさ8ポイント 1文字あける
40	$u^d = 0, \quad v^d = 0, \quad w^d = \alpha \sin \frac{\pi x}{a} \sin \frac{\pi y}{b} \quad (1)$ $u^{cd} = 0, \quad v^{cd} = 0, \quad w^{cd} = \frac{z}{h} \alpha \sin \frac{\pi x}{a} \sin \frac{\pi y}{b} \quad (2)$							40	(1)数式は通番で(2)：とする
45	<p>文頭をそろえる</p>							45	
* ○○工業大学工学部建築学科 教授・工博				Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, ○○ Institute of Technology, Dn Eng.					
** ○○工業大学工学部建築学科 助教・工修				Research Assoc., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, ○○ Institute of Technology, M. Eng.					
*** ○○工業大学工学部建築学科 大学院生・工修				Graduate Student, Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, ○○ Institute of Technology, M. Eng.					

表題

氏名

英文要旨

Keywords

刷り上がり本文

所属機関

和文所属等

注 1) A4判仕上げで作成する。紙面の割付は、版面：247mm×178mm、本文段幅：86mm、段間：6mm、余白：上20mm・下29mm・左右16mmとする。文字種別は、章節等の小見出しはか一部を除いて、和文は明朝体、英文はローマン体が原則である。

2) 原稿は太枠内に記述し文字数・行数を守ること。1頁は次の項目の字数を自安に原稿を作成する。ただし、「発行年月日」の表示のため、120字分減らす。  
表題 480字(60字×8行)、氏名 240字(60字×4行)、英文要旨 540字(60字×9行)、Keywords 180字(60字×3行)、刷り上がり本文：1頁目1200字(60字×20行)、2頁目より60字×50行=3000字 所属機関 240字(60字×4行)

3) 英文はワープロ機種(フォント種類)等によって指定文字サイズが異なるため、英文表記箇所はこの体裁見本に近い方の文字の大きさを選択して用いること。

4) 原稿のスタイルは既刊の論文集を参考にする。

3. 研究の概要 10 15 20 25 30

1) 研究の流れ 小見出しはゴシック体とする

本研究は、以下の3分析を順次行っている。  
駅前広場を評価する場合に着目される物理的要素と評価との関係の整理

2) 対象とする駅前広場の景観について

駅前広場は360度囲まれた空間であり、その景観は、人間の視覚範囲を越えている。そのため、駅前広場の景観としては、駅に降り立つ

↑行あける ↓

表1 対象とした駅前広場

駅名および出口名	広場の形態	駅名および出口名	広場の形態
中央林間	ロータリー	鷺沼	ロータリー
つきみ野	ロータリー	宮崎台	歩行者空間
南町田	歩行者空間	二子玉川園(西)	歩行者空間
すずかけ台	歩行者空間	自由ヶ丘(中央口)	ロータリー
つくし野	歩行者空間	祐天寺	ロータリー
長津田	ロータリー	田園調布	ロータリー
市が尾	歩行者空間	JR武蔵小杉	ロータリー
江田	ロータリー	東急武蔵小杉	歩行者空間
あざみ野(東)	歩行者空間	日吉(南)	ロータリー
あざみ野(西)	ロータリー	桜木町	歩行者空間
たまプラーザ	歩行者空間	池上	ロータリー

↑行あける ↓

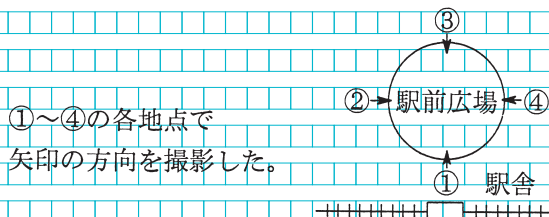


図1 写真撮影地点

↑行あける ↓

最初に目にした場合のような単一の視点からの視覚範囲によってとらえられる景観と、様々な体験にもなつて無数の視点から目にした場合のような360度の景観を対象とする全体的景観とが考えられる。そこで、本研究では、単一の視点によって知覚される景観(単

.....(略)

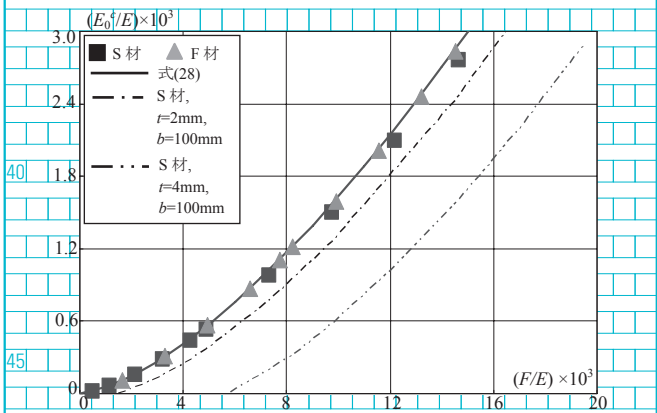


図2 グラフ

.....(略)

30

1 5 10 15 20 25 30

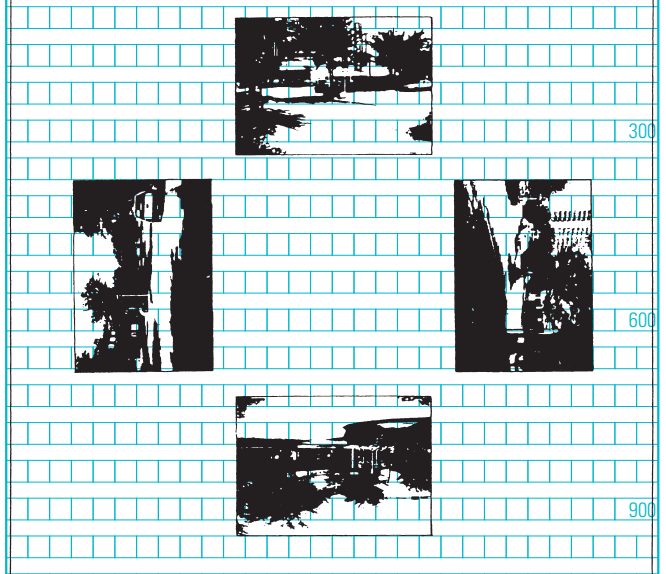


写真1 Bの一例

↑行あける ↓

.....(略)

↑行あける ↓

6. まとめ 小見出しはゴシック体とする

駅前広場を対象に、景観の多様性と評価のあり方について、以下のような知見を得ることができた。

1) 駅前広場を評価する場合に着目される物理的要素と評価との関係の整理

1) 緑、シンボル、人車分離、ベンチ、街灯、バスは、本研究の実験対象においては、“好ましい”という判断理由のみに用いられた物理的要素であり、積極的に計画されるべきものである。

.....(略)

↑行(以上)あける ↓

参考文献 小見出しはゴシック体とする

- 1) 志水英樹, 鈴木信弘, 山口 満: 駅舎および周辺街並の知覚構造に関する研究, 日本建築学会計画系論文報告集 No. 433, pp.41~51, 1992.3
- .....(略)

50 5 10 15 20 25 30 1 5 10 15 20 25 3000

注 1) A4判仕上げで作成する。紙面の割付は、版面: 247mm×178mm, 本文段幅: 86mm, 段間: 6mm, 余白: 上20mm・下29mm・左右16mmとする。文字種別は、章節等の小見出しはか一部を除いて、和文は明朝体、英文はローマン体が原則である。  
2) 原稿は太枠内に記述した文字数・行数を守ること。1頁は次の項目の字数を自安に原稿を作成する。ただし、「発行年月日」の表示のため、120字分減らす。  
表題 480字(60字×8行)、氏名 240字(60字×4行)、英文要旨 540字(60字×9行)、Keywords 180字(60字×3行)、刷り上り本文: 1頁目1200字(60字×20行)、2頁目より60字×50行=3000字 所属機関 240字(60字×4行)  
3) 英文はワープロ機種(フォント種類)等によって指定文字サイズが異なるため、英文表記箇所はこの体裁見本に近い方の文字の大きさを選択して用いること。  
4) 原稿のスタイルは既刊の論文集を参考にする。

参考文献等...文字大きさを7ポイント